

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0110510476), 法人名 (医療法人 中山会), 事業所名 (グループホーム春桜), 所在地 (札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5), 自己評価作成日 (令和元年9月10日), 評価結果市町村受理日 (令和元年11月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは住宅街にありながらも周囲を自然豊かな環境に恵まれています。ホーム前の花畑や玄関周りに季節の花々を絶やさず育て、入居者さん、ご家族、近隣の方々にも楽しんで頂ける様工夫しています。ミニ菜園で野菜を育て、散歩の時等に職員、入居者さん一緒に収穫をし、食卓を飾っています。行事等では、地域ボランティアを招いたり、地域の演奏大会を観覧に出掛けたりしています。隣接するパウロ病院の行事にも参加し、夏祭り、花火大会には、ご家族も参加され一緒に楽しんで頂ける様になっています。また、芋ほり、のど自慢大会にも積極的に参加され楽しい時間を過ごして頂いています。入居者さん、ご家族の要望を出来る限り取入れ、外出、外泊の支援も行って頂いています。2階通路でパウロ病院と繋がっており、病院受診がスムーズに支え、体調の急変時や、入退院の支援体制が整っており、ご家族の安心に繋がっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0110510476-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年9月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境や介護設備等の機能性；病院と廊下伝いの連携ある3ユニットのホームである。野幌原生林を向かいに自然環境も良く、また、諸設備は介護機能性に配慮されている。
2) 職員の介護態度・姿勢；職員は理念「大切な命を元気で楽しい命に」を基に真摯に耳を傾け、手を差し伸べ、ともに食べ、自然を楽しめる生活環境作りと利用者介護の専門的研修を重ねて、業務に専念している。
3) 家族等の好感度等；職員の利用者個々への行き届いた介護姿勢や、丁寧な報告・相談の対応姿勢に高い好感を示している。
4) 運営推進会議の開催状況；会議は定例に開催し、包括支援センター、民生委員、地域組織関係者の参加を得て、意見や情報が提供されており、運営に活かされている。
5) 地域組織・機関との連携；民生委員、地域消防団、包括センター等の連携がよく、社会的役割を相互交換して、運営に資するよう反映している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスの際「大切な命を元気で楽しい命に」を全員で読み上げ共有し、その理念をもとに個人目標を設定し、実践出来る様努めています。	基本理念である「大切な命を元気で楽しい命に」を基に、職員の基本的な介護姿勢・方針を共有して、傾聴・受容による対応を行っている。利用者本位の支援に専念し、研修を重ねて資質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	隣接する母体病院での夏祭り、花火大会に地域の方が参加され、交流しています。また、地域の演芸大会の鑑賞に行き交流しています。	地域との関連も含む年間の行事計画を明らかにして交流すると共に、会議等でも地域組織や関連機関との連携や、介護等での意向把握や情報交換を行い、運営に資するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった地域の方々に現在の様子を報告する事で理解して頂ける様努めています。また、地域のボランティアを受け入れ、認知症の方への理解や、支援をして頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している運営推進会議の中で事業所の行事や生活の様子、防災の取り組みを報告し、意見を頂きその内容をカンファレンスを通して職員に周知し、サービス向上に努めています。	会議は定例に開催し、民生委員、地域組織関係者(町内会、地域消防団)、包括支援センター等の参加を得ている。運営状況を詳らかに報告して、意見や情報を交換し、相互の役割理解などに努めて、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届けには、直接市役所を訪ね、事業所の現状報告、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築く様取り組んでいます。	市の行政窓口とは定例の業務結果報告等により、具体的運営状況を伝えるとともに、情報交換に努めている。また、グループホーム連絡協議会での研修に参加し、直近の情報を得て、運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含む	毎日虐待、身体抑制、不適切行為等対応マニュアルの読み合わせを行い、理解しています。玄関、非常口、階段口のドアは、夜間のみ様々なリスクと防犯上の事もあり、施錠しています。	利用者本位の支援を基本に、 unnecessaryな拘束のないよう、実例に基づく委員会の定例的開催とともに、その内実あるケアの実践を職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員がカンファレンスで発表し、資料を回覧する事で認識を高め、虐待のないホーム作りに努めています。また、入浴時の身体チェック、日々の言動の変化に気を配っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、その後カンファレンスで発表し理解しています。日常生活自立支援事業、成年後見制度は、事業所内に資料があり、自主研修しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明に十分な時間をとり、入居者、家族の理解や納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは運営推進会議や来訪時に直接お話を聞き、ノートに記載し、孟子礁やカンファレンスにて共有しています。	家族の来訪時の対応で信頼と連携に努め、日常の連絡・報告に加え、家族連絡ノートに状況を記録して確認する等、家族意向の受容に努めている。これらはカンファレンス会議や申し送り等でも確認して、個々の支援に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個人面談や月2回のカンファレンスで意見を聞き、それ以外にも提案があれば、その都度反映させています。	代表者を含め、定例のカンファレンス会議を通じて利用者個々の変化を確認するとともに、職員相互の専門的理解を進める場として、職員の意見・意向を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給体制を取り、自己評価、面談等により、やりがいや向上心を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に多くの職員が受講出来る体制をとっています。職員は働きながら、働きながら介護福祉士、介護支援専門員の資格を取得する人が多くいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は厚別区のグループホーム管理者会議、ケアマネージャー会議、勉強会に「参加しています。職員は厚別区グループホーム合同研修に参加し、サービスの向上に繋がる様取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず見学をして頂き、面談を実施して本人や家族から情報を得る様にしています。入居後は、安心した生活出来る様に、不安な事、要望等はその都度話を聞き対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話を十分に聞く他にセンター方式のシートに記入してもらう事で家族の気持ちを理解し、不安な事、要望に対応して、家族との信頼関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本院や家族の話をよく伺い、必要としている支援や要望している事に対応する様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に於いて、個々の出来る家事手伝い、掃除等を手伝って頂き、その中で会話したり、時には教えてもらいながら、お互いを支え合っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所持に「暮らしのシート」を開示して、日頃の様子を把握して頂いています。また、お便りでも個人の様子を報告したり、行事に参加して頂き、職員と家族が共に本人を支え合う関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は自由にして頂いています。また、家族や知人の協力を得て、自宅や買い物にも行かれています。	家族・知人の訪問頻度は高く、その時を利用者の思いも含め、協力を得ながら外食や買い物等の機会を設ける等、馴染みの関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりを大切に席の配置を工夫したり、お茶、食事、アクティビティ等に職員も加わり、コミュニケーションが取れる様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院先の面会や、その後の状況を把握させて頂いています。必要に応じ、相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを受け止め、十分に話を聞き対応しています。また、表情、言動から思いを把握する様に努めカンファレンスで報告、検討しています。	入所以来のアセスメントの内容を職員間で共有する等、個々の思いや習慣、表情・行動等に留意して、カンファレンス会議等で相互理解を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居者情報を家族に記入して頂いています。また、毎日の暮らしの中からも把握する様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしのシート」や「個人記録」に毎日記録し共有しています。変化が見られた時にはm都度申し送り等で全職員情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度見直しを行い、変化に応じ次回プランの見直しをして、家族にも情報を提供し、意見交換を経て、介護計画に繋げています。毎月2回のモニタリングを行っています。	定期的、変化に応じた計画の見直しには、居室担当職員の報告、カンファレンス会議との成果を活かし、家族の意向や意見も取り入れ、職位に応じた参加の成果を計画に表している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録用紙に生活の様子、バイタルチェック、食事量、排泄、体調の変化等を記録し、情報共有しています。また、ケアプランを毎日チェックし、活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活用して健康管理を行っています。必要に応じて歯科受診や、理美容等のサービスを受けられる様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得て、本人が豊かに生活出来る様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望するかかりつけ医を利用して頂いています。家族が受診に付き添う際には、本人の状況を説明し、適切な医療が受けられる様配慮しています。	廊下伝いの母体病院の支援を得て、定期受診・安全の保持に努めている。利用者個々のかかりつけ医受診は、家族の協力を得て行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や見守りを行う中で、入居者の体調の変化や状況を確認し、職員間で共有、把握しています。不測の事態の際は、看護師であるホーム長に連絡し、受診してもらっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援に関する情報を医療機関に提出しています。本人、家族の支援を行い、病院からの問い合わせには、職員もスムーズに答えられる様に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入所相談時に医療連携体制の説明と重度化した際に事業所が出来る事、支援の状態を説明しています。終末期には、本人、家族の意見を尊重し支援出来る様取り組んでいます。	重度化や終末期における対応指針に基づき、契約時に説明・同意を得て、心身の変化に応じて、家族と協議しながら適切な対応を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、急変時や事故発生にも速やかに対応出来る様に備えています。AEDも設置しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年2回避難訓練を行っています。また、全職員防災センターで煙体験、地震体験等に参加しています。運営推進会議の中で協力体制を築いています。	防災機関の協力を得て、定例の訓練を実施するとともに、防災センターの体験経験を含め、職員相互の認識に深化を図っている。また食料・水等の備蓄にも留意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのその日の表情や状態に応じた対応や言葉掛けをしています。トイレ誘導時や入浴時は特に注意して対応しています。	職員は理念に準じて、利用者本位の自立支援のもとに、個々の人格の尊厳・プライバシーを損なうことのない資質向上の研修に努めて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情、仕草、言葉等から本人の思いや希望を聞き取る様にし、自己決定出来る様に働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は設定していますが、一人ひとりのその日の体調や希望に沿った対応をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、好みを取り入れて更衣、整容が行える様に声掛け見守りを行い支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際には、一人ひとりの好みのメニューを入れる様にしています。入居者と職員と一緒に調理、盛り付け、配膳準備をし、テーブルを共にして同じ食事を一緒に楽しんでいます。	誕生日や行事・季節に応じた変化のある食事の楽しみ、個々の嗜好や心身の状態に応じた調理などに留意し、皆が和やかな食事環境となる様、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事量、水分量、形態に配慮し、記録しています。嚥下の悪い方には、トロミ剤を使用し、飲み物も数種類用意し好みの飲み物を提供する事もあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に合わせた方法で口腔ケアを行っており、特変があれば、歯科受診しています。また、定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、定時誘導やパッド確認をしています。状態に応じて、布パンツ、リハビリパンツ、パッド等使い分け、自立に向けた支援をしています。	排泄の自立を基本方針に、食事等の摂取状況と排泄の関連表を様式化する等、職員はデータ等を共有や個々の衛生用品等にも留意して、支援に専念している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食物や十分な水分補給を心掛け、個々の体力に合わせて、運動、散歩等を行い便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しく入浴出来る様、一人ひとりの好みに応じて湯の温度、時間、声掛けのタイミングに配慮しています。気分の乗らない方には無理強い委せず、翌日に再度お誘いしています。	入浴支援には個々の意向やタイミングを図りながら、個々の状況に応じた湯温・時間等、楽しい入浴となるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、昼寝を含めて安心して眠れる様におんど、湿度の調節や寝具の調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報をファイルして職員は把握し、症状の変化を観察しています。服薬前後は2名の職員で確認し、服薬時は、名前を本人と確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせてテーブル拭き、食器拭き、洗濯物干し、たたみ、食事の下ごしらえ等に携わって頂き、張り合いや喜びを感じて頂ける様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、外気浴、散歩、買いもの等にも出掛けられる様支援しています。花見や隣接のパウロ病院での夏祭り、花浴び大会にも家族と共に出演される様に支援しています。また、地域の演芸大会の観覧にも出掛けられる様に支援しています。	周辺環境が自然に恵まれており、季節に応じた桜花や紅葉などが楽しめ、花壇や野菜畑などの成長を楽しむなど、外気に触れる機会が多く持たれている。また、母体医療機関の夏祭り、花火会など、近隣の人々ともに楽しめる機会に恵まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてお金を所持し、病院受診時に売店等で自由にお金が使えます。また、家族からお小遣いを預かり、買い物希望される際には同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書いたり、電話を希望される時には、ホームの電話を取り次ぐなどの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近の写真や季節の飾り付け、入居者と一緒に作った作品等を展示し、居心地良く過ごせる様工夫しています。不安感や混乱を招かない様に照明やテレビの音量、室温等細目に調節しています。	居間や廊下に利用者の作品や写真・絵画等が見事に展示され、平安で穏やかな雰囲気を感じている。3階のホームの中央には光窓があり、ユニット全体を明るく、ゆったりとした居心地良さを与えている。また観葉植物の配置なども心なませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースにテーブルとソファを配置し一人ひとりがくつろげる様に居場所作りを工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具、生活用品を持ち込んで頂き、安心して過ごせる様工夫しています。	個々の居室前には、本人の嗜好に合った作品等の飾り場が設備されている。居室内も、馴染みの家具や装飾品で居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーの造りで歩行が不安定な方にも配慮し、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあります。居室には表札を付け、トイレ、浴室もわかりやすく表示しています。		